

IPで“工業用ビデオスコープの映像”を100mまで長距離伝送 遠隔からの操作で安全にインフラ設備を検査

簡単なセットアップ方法と安心の国内サポートが導入の決め手に

OLYMPUS



導入先：オリンパス株式会社

オリンパス株式会社は、工業用ビデオスコープ「IPLEX GAir」を2020年12月に発売した。「IPLEX GAir」は、石油プラントや発電所などのインフラメンテナンス向けに開発された製品で、スコープの挿入長が30mあるため、配管などの狭くて奥行がある場所の検査に活用できる製品だ。

さらに、本体にATEN製VE8950を組み合わせることによって、**最大100m離れた場所から、遠隔操作することが可能**。例えば、原子力発電の危険区域など、危険を伴うような場所では、一定以上の距離を取り、**遠隔から安全に検査を実施することができる**。

今回の取材では、本要件にATEN製品を採用していただいた背景や、実際の製品活用方法について、「IPLEX GAir」の開発ご担当者様にお話を伺うことができた。

導入したATENソリューション

■ VE8950 Video over IPエクステンダー（4K HDMI対応）

4K解像度の映像信号を最大100mまで延長可能なエクステンダー。トランスミッターとレシーバーを組み合わせ使用。ITに関する知識が少なくても、簡単にIP設定が可能。このようなユーザーフレンドリーな設計が、特に評価いただいたポイントである。



導入後の効果

- 「IPLEX GAir」の特性である“遠隔操作”を強力にバックアップ
- ITに関する知識が少なくても簡単にIP設定ができるため、現場でスムーズな導入が可能
- 遠隔からの操作により、危険な場所でも安全かつ効率的に作業が可能に

構成図

工業用ビデオスコープ「IPLEX GAir」



IPを介した伝送で
最大100m延長可能



VE8950T



VE8950R



遠隔操作用モニター



「IPLEX GAir」
コントローラー

- IPネットワーク
- HDMIケーブル
- USBケーブル

VE8950T/VE8950R

Video over IPトランスミッター/レシーバー



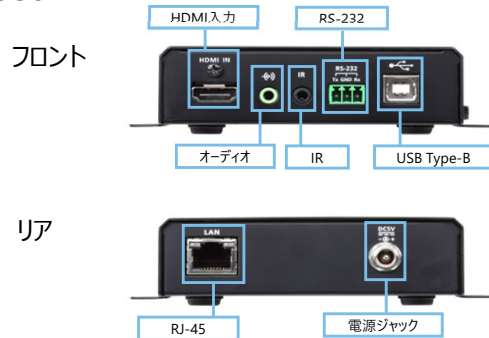
Overview

VE8950は、トランスミッターとレシーバーの両方を用いて、最大4K解像度の映像信号を延長します。信号はギガビットネットワークを介して延長され、遅延や画質の劣化が極めて少ない状態での長距離伝送を実現します。

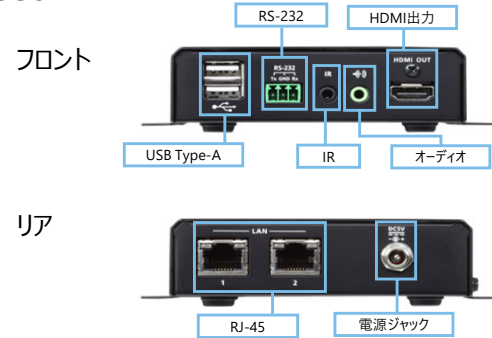
Features

- 4K解像度対応 - 最大3840×2160@30Hz (4:4:4)、24ビット色深度対応
- エクステンダー、分配器、マトリクススイッチャーとしての機能の他に、ビデオウォール表示やデジチェーン接続にも対応
- EDIDエキスパート機能搭載 - 自動/手動で適切なEDIDモードを選択可能
- トップパネルにあるプッシュボタンで、入力ソースを簡単に切替

VE8950T



VE8950R



取材ご協力

OLYMPUS

オリンパス株式会社

www.olympus-ims.com

■ 取材先：シニアエンジニア チームリーダー ご担当者様

■ IPLEX GAir 製品ページ：

<https://www.olympus-ims.com/ja/rvi-products/iplex-gair/>



<https://youtu.be/A8B7FCD6uls>

※ 取材当日は、実際の使用を想定した製品構成について、ATEN取材班がデモをさせていただきました。

製品導入のポイント：

「IPLEX GAir」の開発当時、“遠隔操作”というキーワードを元に、要件に合致する製品を探されていたというご担当者さま。その当時、ご訪問いただいたIT系展示会のATENブースにて“IPエクステンダー”を知り、気づきを得たという。

他社製品と比較・検討していく中で、総合的なご判断の結果、ATEN製IPエクステンダーを選定いただいたが、中でも、**ワールドワイドで拠点を展開していること・国内サポート（サービス体制、技術力）が充実していること**が製品採用の大きな決め手になったという。また、お客様目線で考えたときに、ユーザーフレンドリーで比較的簡単に操作できることが大切なポイントだったという。VE8950は、**ITに関する知識が少なくても、簡単にIP設定ができるため、現場導入のハードルを抑えることが可能だ。**

ご担当者さまによると、インフラ設備を検査できる技術者は限られているため、現場に行かずとも遠隔で検査できる活用方法は、多くのニーズが見込まれるという。さらに、国境を越えた遠隔操作ができるようになれば、よりニーズが広がるため、今後ATEN社には、海外へのアクセスも可能な製品の開発に期待を寄せているという。